

経営比較分析表（令和5年度決算）

岡山県瀬戸内市 瀬戸内市立瀬戸内市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	その他
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	14	-	ド 訓	救 臨 輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
36,484	7,803	第2種該当	-	1 〇 : 1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
110	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	110
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
108	-	108

■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 （従来の再編・ネットワーク化を含む）	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

救急、小児、精神科といった不採算部門に関わる医療を提供している。乳がん、子宮がんといった健診業務についても、引き続き行った。健診結果により、精密検査が必要な方についても、その検査を実施している。訪問看護ステーションを運営し、地域包括ケアシステムの担い手として、住み慣れた場所でいつまでも生活できるように地域を支えている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類相当に変更となった以後も、院内感染対策のため感染部屋を設けて運営を続けている。入院患者数は、昨年より1日平均6人増加している。入院患者1人1日当たりの収益は昨年度より若干減少した。外来患者は1日当たりの患者数・収益ともに若干減少した。新型コロナウイルス関連の補助金は終了し、燃料価格の高騰により光熱水費が増加し、常勤医減による入院患者数の減少が影響し、経常収支率は低下した。新型コロナウイルス感染症への対応は継続しつつ、一般の入院患者を最大限受け入れしていけるよう、近隣開業医及び高度急性期病院や介護施設等への訪問活動を行っている。

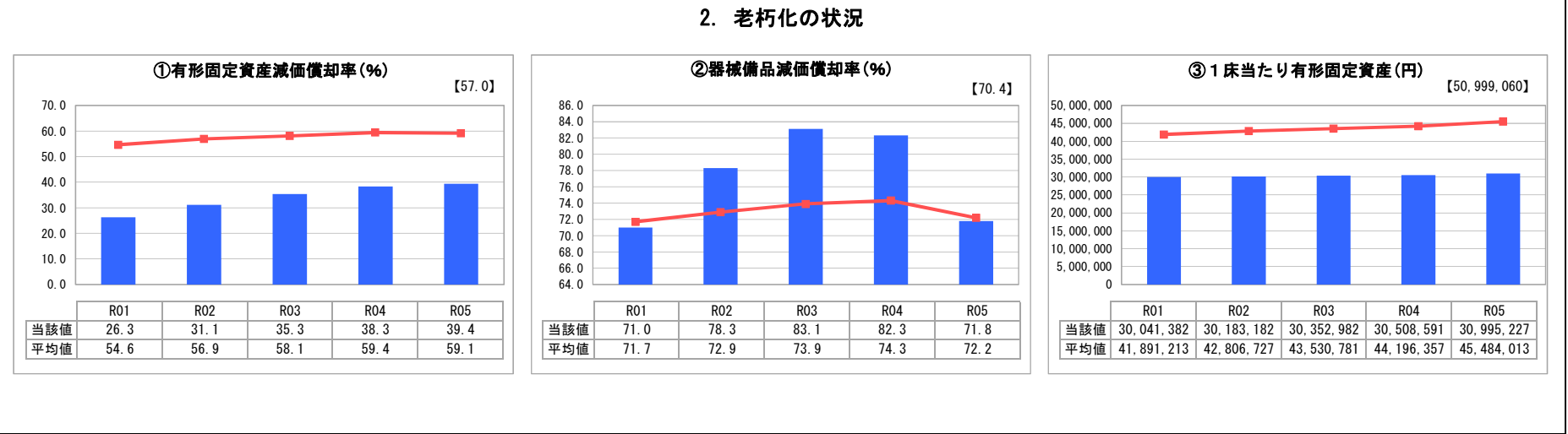
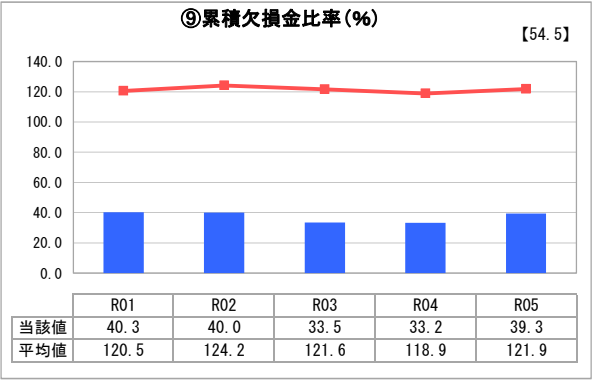
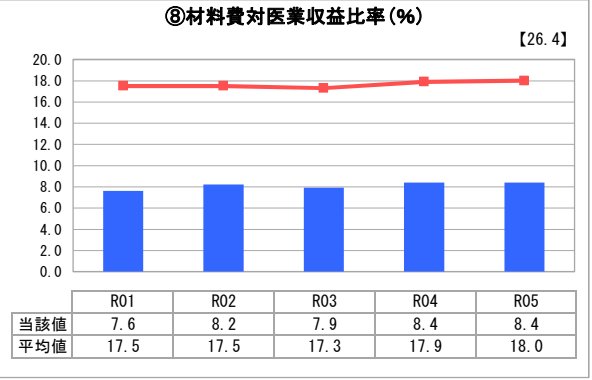
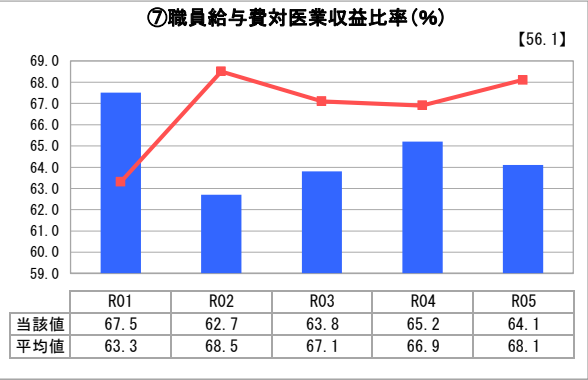
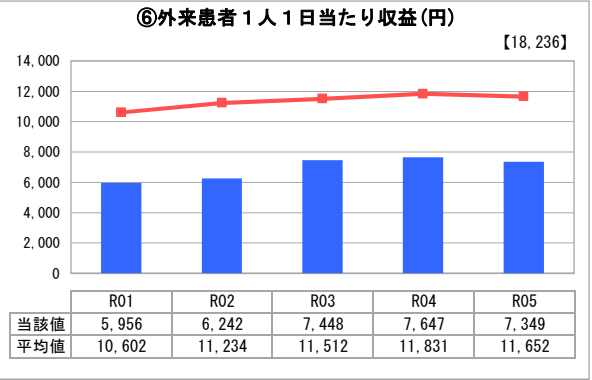
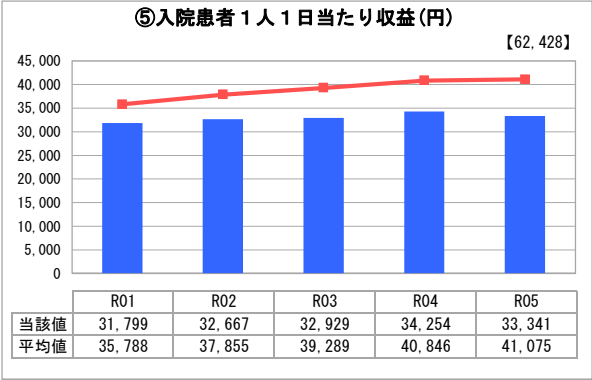
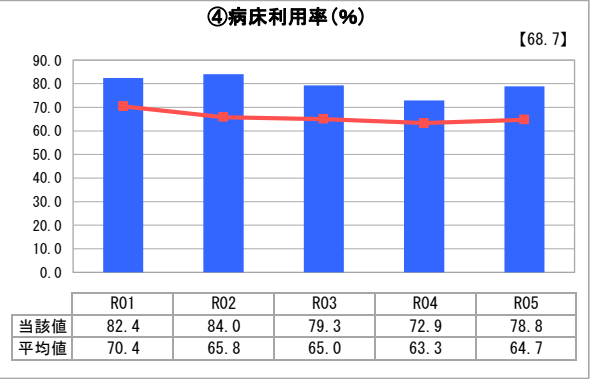
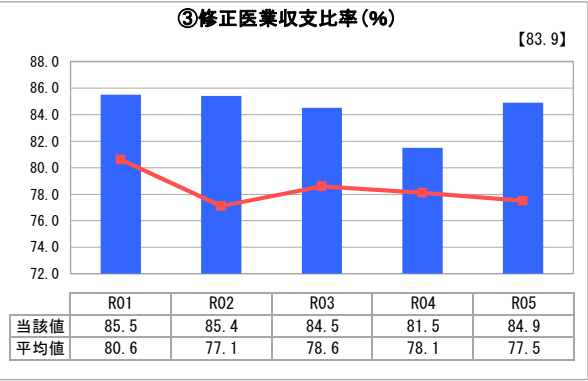
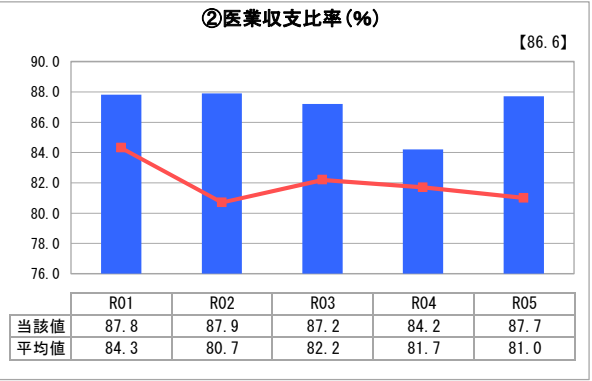
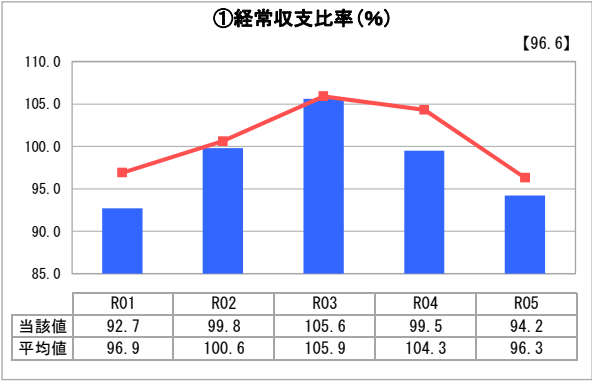
2. 老朽化の状況について

平成28年10月より新築病院で経営を行っており、建物の老朽化には該当しない。医療機器については、それぞれの耐用年数経過時に、今後の使用状況、対費用効果などでいつ更新するか判断していく。令和5年度は、電子カルテシステム一式、上部消化管用拡大スコープ、全自動糖分析装置、自動グリコヘモグロビン分析計を更新した。

全体総括

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類相当に変更となった以降も、外来患者数は増加せず、外来から入院へつながる患者数も減少した。新型コロナウイルス関連の補助金が終了し、燃料費の高騰による光熱水費の増加や入院患者数の減少が影響して、経常収支率は低下した。新型コロナウイルス感染症の影響で地域の開業医訪問など行えなかったことは外来患者数減につながっていると考えているため、近隣の開業医や高度急性期病院、介護施設等への訪問活動を行っている。また、令和5年度中に新興感染症へ対応できる体制整備を含めた病院経営強化プランを策定した。令和6年度以降は、その進捗管理を行い、プラン内で設定した目標達成を目指す。

1. 経営の健全性・効率性



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。